



『成功するまでやり続ける』

税理士法人TACT高井法博会計事務所
TACTグループ関連12社代表

税理士 高井 法博

「法人化のご挨拶」

あけましておめでとうございます。
新しき年を迎え、皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
また、昨年九月十七日の創立30周年「感謝のつどい」には、ご多忙にもかかわらず大勢の皆様にお越しただけ心より厚く感謝申し上げます。

さて、弊社グループは昭和五三年に高井法博会計事務所を創業し、中小企業の「ビジネス・サポート業」「情報発信基地」「社外重役」として、お客様の事業のお役に立ちたいと、税理士法に定める業務をはじめ、様々なサービスを提供させていただいて参りました。これまで税理士業務は、一身専属的なものとして法律の制約により法人が認められませんでした。法人化の社会的必要性が認知され平成一四年四月に税理士制度の改正が実現し、税理士業務自体の法人化が認められました。

人TACT高井法博会計事務所」を設立し、法人化させていただきました。これにより法律で認められる業務は、すべて法人で対応させていただきます。さらにはサービスの永続的なご提供と、お客様への組織的対応をより一層今まで以上に実現して参る所存でございます。

税理士法人の定款に、法人化の目的と位置づけを定めました。

「第1条 当法人は、お客様の経営体質強化と健全経営の実現のために、お客様に対し『ビジネス・サポート業』『情報発信基地』『社外重役』としての役割を果たし、お客様の事業の発展に寄与し、当法人の発展と全社員の物心両面の幸せを勝ち取り、もって国家・社会の発展に貢献することをTACTグループの共通の使命とする。」と定めさせていただきました。まず税理士法人の定款第一条に経営理念・方針を掲げている法人はありませんが、私たちはお客様が期待される永続的な税理士法人として、組織として、全社員が高邁な精神とフィロソフィーをもってお客様の発展のお手伝いをしていただきたいという思いを込めて定めたものです。

今後とも税理士法人のみならずグループスタッフ一同が、お客様の経営課題の解決にお役に立てますよう自己研鑽に努めて参りますので、何卒倍旧のご支援を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

「成功するまでやり続ける」

不器用で小心者の私が、学生時代には思ってもいなかった税理士の資格をとり、三〇才で会計事務所を開業し、昨年で三〇年を迎えることとなった。奇しくも昨年還暦だったが、あつと言つた六〇才であった。

省みれば、人生はまさに「二期一会」「邂逅」である。小学校に入学して二三日目に、担任の村井艶先生から国語の本読みを当てられ、母親が教えてくれたように、大声でゆつくり読んだのを誉められ、勉強が好きになったこと。生活保護を受け生活が厳しく小学校の低学年から新聞配達をしていたのを不憫に思つてか、担任の篠田好先生が自宅の玄関で待つておられ隣の駄菓子屋へ連れて行って下さり、時々アイスクリームやパンを買つて下さり励ましてもらったこと。中学三年の時父が病で倒れ高校進学も断念したとき、母親や先生の骨折りで人生の師であり大恩人の(株)後藤藤野卵場の創業者後藤藤静一氏に出逢つたこと。学生寮を作つていただき、学費から生活費、小遣いまでの一切の面倒を見てもらひ昼間の県立岐阜商業高校を出していただいた。そして卒業後会社に入れていただき、ヤル気だけはあるがドジで失敗ばかりする不完全な私

を関連会社の経理、総務、企画室、社長室の責任者として次々と抜擢し色々な仕事をさせて下さった。まさに仕事を通して成長できた実感する。

その間に取得した税理士の資格だけを頼りにお許しをいただき開業した。開業後もサラリーマン時代同様、睡眠時間を四〜五時間にし、遮二無二に働き勉強もした。私の著書「成功するまでやり続ける」にも何度か出てくるが小さい時からの貧乏や、自分では勿論両親のやることなすことすべてがうまく行かず、何故自分達ばかりはこうなんだと不遇を嘆き呪つた。このような他責で、後ろ向きなネガティブな考え方は、就職して数年後まで時々頭をもたげた。

両親は共に裕福な家に生まれ、母は僧職である父と結婚し平穏な生活を送つていたが、戦後社会の激変期―農地解放―に上手く対応できず体調を崩し極貧の生活を余儀なくされ、遂には生活保護を受けざるを得なくなった。気が弱く内弁慶な私は何処にも持つて行けないやるせない鬱積した気持ちを、病気がちの両親にぶつけた。両親は、私のそのような言動に対し、なげなしのお金と労力でできる限りの範囲内で応えようとしてくれた。今では誰よりも両親が苦し

かっただろうと思う。

貧乏ではあつたが、教育には理解があつた。小学生の時から小学生新聞や中学生新聞をとつてくれた。様々な偉人の伝記も多く買つてもらつた。色々な和尚さんの話も聴いて育つた。このような本を読み、良い話を聴いて、希望を持つことも時々あつた。暗い後ろ向きの性格の中にもこういった本

や話から前向きな考え方も半面では吸収していった。伝記を読む時は主人公に自分が乗り移り感激し、「私もこうなりたい、そのために一生懸命努力しよう。そして『皆を見返してやろう。』」両親の悔しい思いや無念さは、俺が高井家を再興し晴らしてやる。『今に見ておれ!』と、強く思った。私には貧しさに耐えた少年時代に培った『ハングリー精神』が、体に染み付いている。考えるに、貧しさは自分が成長するためのこやしで、神様が私に与えてくれた試練であつたと思う。

高校を卒業し、大恩ある(株)後藤艇卵場に正式入社した。

『今日から学生生活にピリオドを打ち経済社会に入る、これからは自分の力で道を切り拓き食べて行かねばならない。そのためには皆と同じではない、他の人より抜きん出る必要がある。少なくとも人以上の勉強と努力がなければ勝てない。』と思つた。最初の給与の半分は生活保護を受けていた両親に送った。残りの半分は、かねてより何度も足を運び選んでいたビジネス書と自己啓発の本一〇冊の購入費に当てた。父は生活費にこと欠く中でも毎月何冊もの本を買っていた。この血を引き継いだのかも知れない。兎に角自分の稼ぎで本を買い集めるようになったのが嬉しかった。これ以後毎月給与日に本屋に行くのが習性となつた。そしてこれらの本をむさぼり読み、本ののめり込んだ。これを自分のものにしたところにはアンダーラインを引き、良いと思ふ本は何度も読んだ。その度に、赤、青、

マーカーペンと色を変えて線を引いた。そしてノートを作り抜き書きをした。この他にも、お金を節約し、良いと思うセミナーには有休をとって参加した。そして、極力自分の行動に落とし込むようにした。成果が出て、会社でも認められ役職にも付き給与も上がった。自分が前向きに自責でポジティブになつて行くのが実感できた。すると友達や、付き合う仲間もそのような人が多くなつてきた。不思議と多くの素晴らしい先輩や、人生の師に出逢え、それらの人々から御指導をいただけるようになり陰に陽になつて助けられ引き上げていただけようになつた。その後開業してからもこの『クセ』は加速した。

TKCの創業者飯塚毅先生、日蓮宗の内日祥上人、京セラ創業者の稲盛和夫名誉会長、その他多くの人生の師とお逢ひした。こういふ方々のまわりにはスゴイ人々がさらに集まつていて、大変な刺激を受けた。

何もない中で開業しただけに欲しいものは後まわしにし、あらゆるものを節約し色々な講演会に出てほとんど最前列で聴いた。必死に捻出した大事なお金と、貴重な時間をかける。この機会、瞬間は二度とないとの姿勢で受講した。今は亡き、日本語方教室の江川ひろし先生に『貴方はまさに真剣勝負、鬼気迫る様相であらゆるものを吸収しよう』と受講している』と、言われた通り必死にメモし受講した。テープが録れる時はテープをとり、自分が出席できない良いセミナーには代理を出しテープを録つて来てもらった。市販のテープやビデオも良いと思うものは買いまくつた。そして

それらはまず、机の上に置きメモをしながら聴いた。その後良いと思うものは車の中で何度も何度も聴いた。これらの本やテープの中から素晴らしいと思われる人には、手紙や電話をかけ、また人を介し、逢いにも出掛けた。素晴らしいお話はお客様にも是非聞いていただきたいと月に一回の勉強会を主催するようになり、二七年たつた今、三〇〇回近い講演会を主催したことになる。

JCやライオンズクラブ、ロータリークラブには不器用で入れていただかなかつたが色々な勉強会には数多く所属した。私は能力がなく頭が悪い。だからいつも必死に勉強した。勉強してないと不安で仕方がなかつた。その結果膨大なノートとメモ、ファイルが私の手許に残つた。死に物狂いで仕事に取り組んでいて、様々なアイデアや、ひらめきもビンビンと出てくるようになった。これに自分自身の生き様や考え方も加えて、この『一期一会』の巻頭言に書いてきた。昨年の高井会計創業三十周年にあわせてこれを旧知の致知出版社、藤尾秀昭社長の御厚意で出版させていただくとした。したがってこの内容は私自身の考えたこと、人生の師、素晴らしい先輩や古典を始め多くの書から学んだこと、私

が自分の六〇年の半生の中で会社員時代の十二年間、部門経営者として会社の仕事と、言うより自分の仕事と認識し、会社と一体となつて働いたこと。創業三十一年、小さいながらも会計事務所を中心にして十二の会社団体を作り必死な経営者の時代。どれもこれも自分の人生の中で体得し自分の判断のよりどころとさせていただいた『判断基

準』『考え方』、いわば私の血となり肉として来たものばかりをまとめさせていただいた。

難しいことは解らないが、それが正しいことであるならば『人の倍やれば勝てる』ことを、体験的に身につけた。『努力は人を裏切らない』ことを確信できた。

今読み返して見ると誠に恥ずかしい限りであるが、高井会計創業三〇年、人生六〇年を振りかえつて致知出版社より本『一期一会』の巻頭言をまとめた書籍『成功するまでやり続ける』を出版させていただいた。御愛読いただき人生や、ビジネス社会、経営で難問にぶつかつたり、行き詰つたときにいささかなりとも参考にしていただければ幸いである。



最後になりましたが、平素からのご高配に心から感謝申し上げますとともに、今年が皆様にとって、明るく活力に満ちた素晴らしい一年となりますことを祈念致します。年頭のご挨拶とさせていただきます。



感謝のつどい(H18.9.17 岐阜グランドホテル)